

地域における新型インフルエンザ対応： 沖縄県の場合

沖縄県福祉保健部

保健衛生統括監 宮里 達也

【沖縄の特異性について】

- 1 本土と海を隔てた国境の地域である
- 2 基地があり、国際都市地域である
- 3 観光が主産業である
- 4 地域完結の医療体制が求められている
- 5 マスコミへの露出度が普段から高い

【沖縄の対応理念】

(今回の新型インフルエンザについて)

09年4月27日 知事と大筋の確認

理念：社会機能を適切に維持しつつ、被害の最小化に努める。

イベントの中止は行わない。

学校、保育所の休校休所は最小限に

救急医療を中心に、医療機能の適切な維持

現代医療の大きな進歩

(インフルエンザ治療関連)

- 輸液管理の向上
- 呼吸・循環管理の向上
(レスピレータ・PCPS等)
- 抗生剤(肺炎治療の向上)
- 抗ウイルス薬の開発
- 診断技術の向上

1【海外発生】2009年4月25日～

- 沖縄県新型インフルエンザ対策本部会議の開催
 - － 健康危機管理対策委員会も随時開催
- 発熱相談を24時間体制(本庁職員によるローテーション)(～6月中旬まで)
 - － 専任体制が必要
- 検疫所に協力して、米国からの入国者の健康観察を実施
 - － 外国人とのコミュニケーションに課題

2【国内発生】2009年5月中旬～

- 沖縄県としての暫定的な指針を策定 基本的なスタンスは「社会機能を維持しつつ、感染拡大防止に努める」
 - 感染地域(神戸)ではイベント中止で対応
- 対策本部長より、県庁内全部局にBCP(業務継続計画)策定を指示
- 沖縄県A型インフルエンザ全数把握事業を実施したが、新型インフルエンザは1例も見つからなかった

3【県内拡大】2009年7月中旬～

- 感染は全県に拡大していく
- 全数把握体制から、施設などでの集団発生の端緒をとらえるサーベイランスへ
 - それもすぐに限界へ
- (夏は)合唱コンクール、中体連の試合、部活動、ビーチパーティ、エイサーの練習、居酒屋やカラオケなどが感染拡大の場に

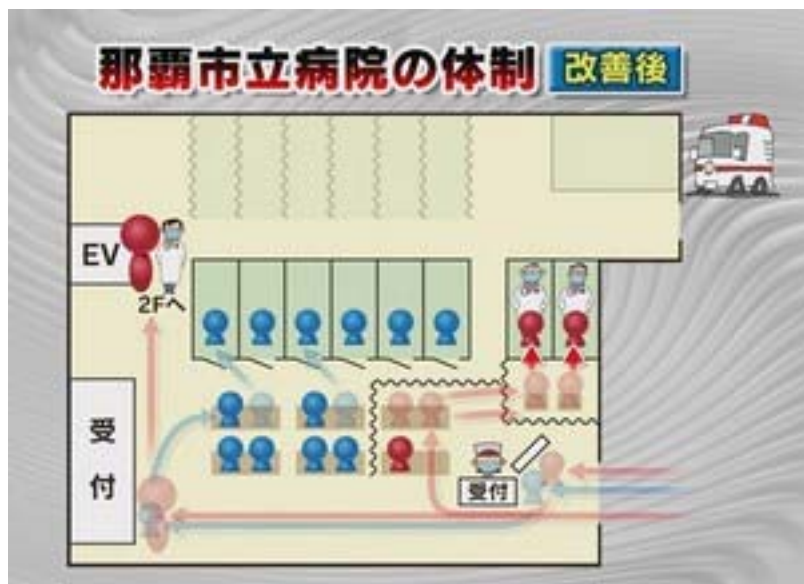
国内初の死亡例

- 8月15日慢性腎不全患者がインフルエンザ肺炎で死亡。全国初の死亡例と報道される。
- その日のうちに概要を記者会見で発表。
- 翌朝、当該病院で症例検討
- 治療法に問題なく、更なる注意喚起をマスコミ発表
 - ・合併症のある人は人ごみを避ける
 - ・発熱時には早めに主治医受診のこと
 - ・簡易キットは偽陰性のこともある

5【一時小康】2009年9月7日～



- 第1波の総括、沖縄の経験に学べ(NHK解説/朝日新聞/日経メディカル等)
- ワクチン接種事業等に備えて、新型インフルエンザ対策室「専任チーム」発足



6【再燃警戒】2009年10月5日～

- 本土での流行が本格化
- ワクチン接種事業の開始、緊急雇用創出事業による相談員配置事業(11月～)
- 学校休業の目安を緩和する件について、健康危機管理対策委員会で議論



沖縄県における新型インフルエンザ報告数の推移(平成21年7月～22年2月)

死亡

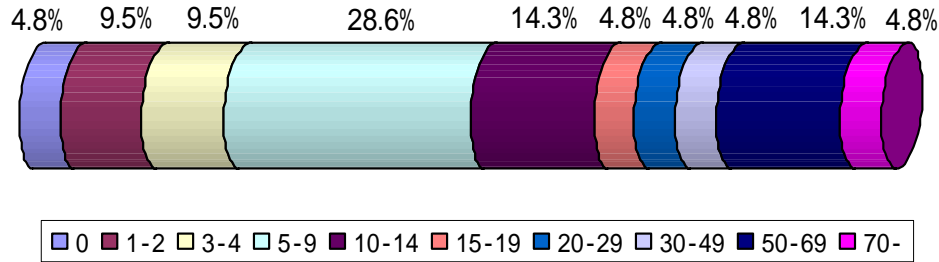
3例

沖縄県内の患者、入院、重症の割合
2010年1月28日現在のデータより試算

重症

21例

(人工呼吸器・脳症等)



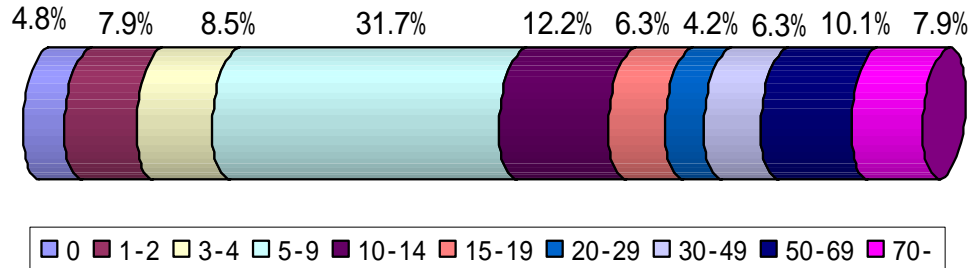
入院約25例に
1例が重症化(4%)

患者約10000例に
1例が重症化(0.01%)

入院

約550例

(各保健所が把握している分)

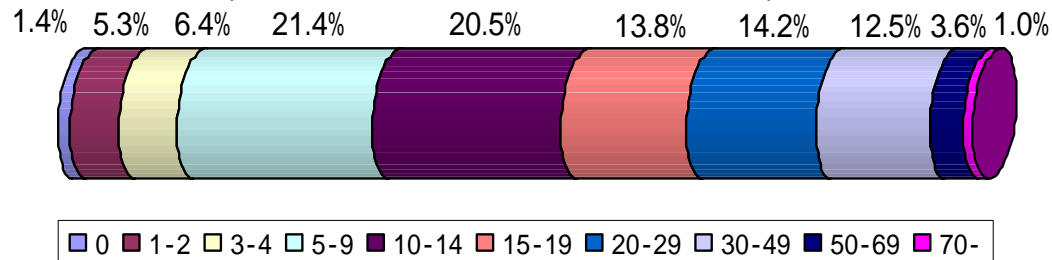


患者約400例に
1例が入院(0.25%)

患者

約22万例

(サーベイランス報告の5倍)



【特記すべき対応】

- ・ 県医師会との連携により、インフルエンザA型の全数把握(PCR検査)を実施(5月)
- ・ 米軍とも積極的に連携し、対応の確認、PCR検査への協力を行った
- ・ マスクの適正使用をマスコミを通じてメッセージ(5月23日)
- ・ 8月18日には、感染が疑われる症例へのタミフルの早期投与の必要性を通知
- ・ 対策本部より県民に対し、完治証明書を求めないようメッセージ
- ・ 観光部局と連携し、観光客や関連業種に関する情報提供を行った(安心カード)
- ・ リスクコミュニケーション(うつさない、うつらない、つぶさない)

【新型の経験から学んだこと】

- 通常の社会機能、医療機能維持の重要性
- 持続対応可能な組織体制を組むこと
- 県民への丁寧な情報発信を心がけること
- マスコミに積極的に情報提供すること
- (医療)現場と情報交換を怠らないこと
- 地域の資源(有償ボランティア等)を育成し、活用するしくみをつくること
- 国の既定路線にとらわれず、現場で判断すること等々

【在沖アメリカ海軍病院表敬訪問】

平成22年1月15日(金)

- 1 知事宛感謝状(米海軍病院長より)
- 2 宮里統括監、系数班長宛感謝状(米国総領事館領事より)



病院の迅速対応に感謝
滋賀の松岡沙季さん(10)
沖縄でインフル重症化
母・志織さん「看護師ら精神的支えに」

学校からの連絡で母親の志織さんが病院に到着したのは同日午後11時ごろ。沙季さんの呼吸症状は徐々に悪化し、簡易検査で新型とみられるA型インフルエンザが分かった。治療は続いたが入院2日目には重度の肺炎となり、3日目は肺の一部が破れて空気がたまる縦隔気腫を併発。4日目に人工呼吸器が必要と判断され、集中治療室(ICU)に入った。



滋賀県から学校の宿泊学習で沖縄を訪れ、新型インフルエンザで入院していた松岡沙季さん(10)が23日、元気に退院、26日に帰郷した。

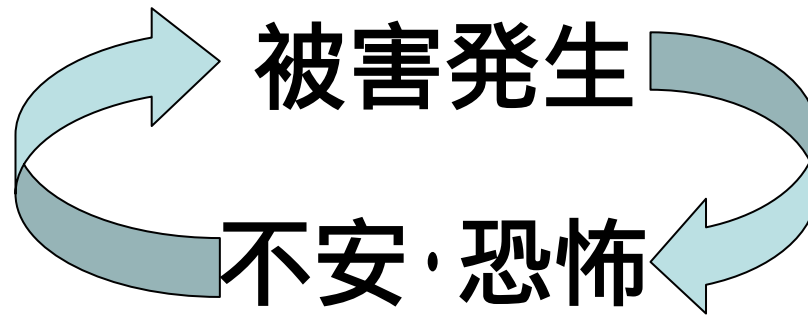
沙季さんが来県したのは今月1日。翌2日の午前中、テーマパークを訪問中に呼吸が苦しくなり、教師の付き添いで救急病院を診察した。高熱など特徴的な症状はなかったが、来県前に新型インフルエンザで沙季さんの通う学校で学級閉鎖があったという情報から、医師は予防的にタミフルを投与。経過観察のため沙季さんを入院させた。

病院では県外から付き添う家族への支援も。家族は本来病室にとどまることはできないが、志織さんは病院で寝泊まりした。「娘のそばに居られることは大きな安心になった。ソーシャルワーカーや看護師も精神的に支えてくれた」と感謝する。

退院後、沙季さんはリハビリをかねて数日観光。「ジュシーや沖縄そばがおいしかった。また沖縄に来たい」と満面の笑顔を見せ、帰郷した。

危機とは！？

(経験の少ない事態の発生)



被害と不安・恐怖の悪循環が危機であり、悪循環を断ち切り社会機能を安定させることが危機管理である